

【アイデア名】

避難訓練をしない方向け防災アプリ

【概要】

防災が必要であるとはいうものの、国民全員が完全に防災訓練を行うわけではない。そこで、防災訓練をしない人向けに、可能な限り、災害時に生き抜く情報を提供しようというアプリである。

【PR ポイント】

どうしても似たようなアプリが乱立しがちな中で抜け落ちている層を狙ったところ。

【必要と思われるデータ】

住民の医療データ、年齢、世帯構成（独り暮らしかどうか）、住居から避難場所までのルート…。

本アプリは、通常時に避難訓練やインターネットの利用を行わないものを想定している災害時アプリである。

東日本大震災以降、防災に注目が集まっている。しかし現状を見てみると、防災訓練を行っているのは、各企業、学校、各地域の自主的な訓練であろう。テレビ番組内で防災の重要性や災害の危険性を訴える番組はあるが、大きな災害の後数年時間を経れば、一部の人間を除いて、忘れがちとなる。東日本大震災からすでに 5 年が経過している。防災訓練にしても訓練内容が不十分となりがちであろう。

防災訓練に熱心な人やいわゆる社会人、学生と防災訓練を行う機会が、自分の意思とは別にある人は、改めて特別な内容をする必要はないといえそう。

しかし、現実には、避難訓練を行う機会はあるが、何らかの理由で、訓練をしない人々がいる。地域の訓練はあるが、めんどくさいのでいかない人。いわゆるニートと呼ばれる人びと。高齢者のうちコミュニケーションが苦手な人。彼らのうち、もっとも災害情報に接する機会が少ないのは、人付き合いの少ない高齢者であろう。若者は、災害時には、日頃利用しているスマートフォンやインターネットを利用し災害情報を収集することはできる。しかし、日頃スマートフォンをあまり利用しないような人にとっては、いきなり災害時に SNS を使用し防災情報を収集しろといわれても、意味はないといえる。

つまり、スマートフォンはもっているが日常電話として利用するしかないような人にとって、いくら最新の情報を利用し、最新の技術を駆使し、アプリを開発しても、実際に使いこなすことができるのかという問題が発生すると考えることができる。

そうであるならば、普段インターネットや SNS を利用しない人に、災害時に必要な情報を届けるためには、「簡単シンプル」「いちいち操作する必要もなく」「まるで回覧板のように」みることのできる情報であろう。

そこで、提案するアプリは、シンプルな防災アプリである。地域の公的機関と連携し、あらかじめ取捨選択をした情報を、テキスト情報を送るアプリである。さらに、オフラインでの使用も想定し、災害発生時に、自動的に病院情報や避難情報をまとめた情報を提供するようにする。最新の情報に更新することはできないが、情報が多くて処理できない場合もあるのであれば、いっそのことその人にとって必要な情報の一部のみをおくることをした方が望ましい結果となるのではないかと考えることはできよう。

以上